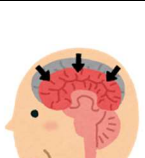
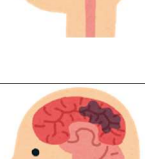


認知症とは？

いろいろな原因で脳の細胞が損傷を受け、働きが悪くなることで、認知機能（情報を受け取って分析する、記憶する、思い出す等の機能）が低下し、生活のしづらさが現れる状態を言います。

	【アルツハイマー型認知症】 アミロイドβタンパクが脳に溜まり、神経細胞が影響を受けて脳が委縮します。認知症のなかで最も多く、初期から物忘れがみられます。
	【レビー小体型認知症】 レビー小体というタンパクのかたまりが、大脳皮質に溜まって発症します。比較的、記憶障害は軽く、しばしばパーキンソン症状や幻視などの症状が伴います。急激に病状が変動するのが特徴です。
	【前頭側頭型認知症】 前頭葉と側頭葉に「タウタンパク」や「TDP-43」等が溜まり、神経細胞が影響を受けて脳が委縮します。同じ行動を繰り返す、我慢が苦手になるといった行動の変化がみられるタイプと、言葉の意味や理解が苦手になるタイプがあります。記憶障害よりも、行動の変化や言語の障害が目立ちます。
	【血管性認知症】 脳卒中を繰り返して脳が損傷される、脳に血液を送る動脈が硬くなる・狭くなるなどで脳に栄養や酸素が行き渡らず、認知機能が低下します。
	【若年性認知症】 65歳未満で発症する認知症の総称です。初期の症状として「物忘れ」「職場や家事などのミスが目立つようになった」「怒りっぽくなった」が多くみられます。

医療機関へのかかり方

かかりつけ医（身近なお医者さん）があなたのことを一番知っています。まずは、かかりつけ医に相談してみましょう。

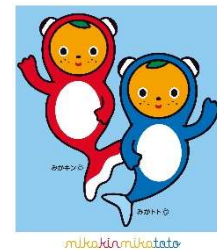


かかりつけ医がいないとき

町内の医療機関で相談ができます。治療も必要になる場合があるので「かかりつけ医」を持ちましょう。町内に「**オレンジドクター**」（やまぐちもの忘れ・認知症相談医）もいます。また「かかりつけ歯科医・薬局」を決めておくと、状況に応じてかかりつけ医と相談しながら支援を受けることができます。

受診が難しいとき

身体的な原因で受診が難しい場合、往診や訪問診療を依頼することも可能です。診断は、進行を遅らせたり、これからもその人らしく生きていくことができるよう、適切な対応（ケア）の方法を知るためのものです。不安が強い場合は、健診に行くなど、まずは身体のことを相談してみましょう。



認知症のことが気になりはじめた方、ご家族に 周防大島町認知症ケアパス

保存版

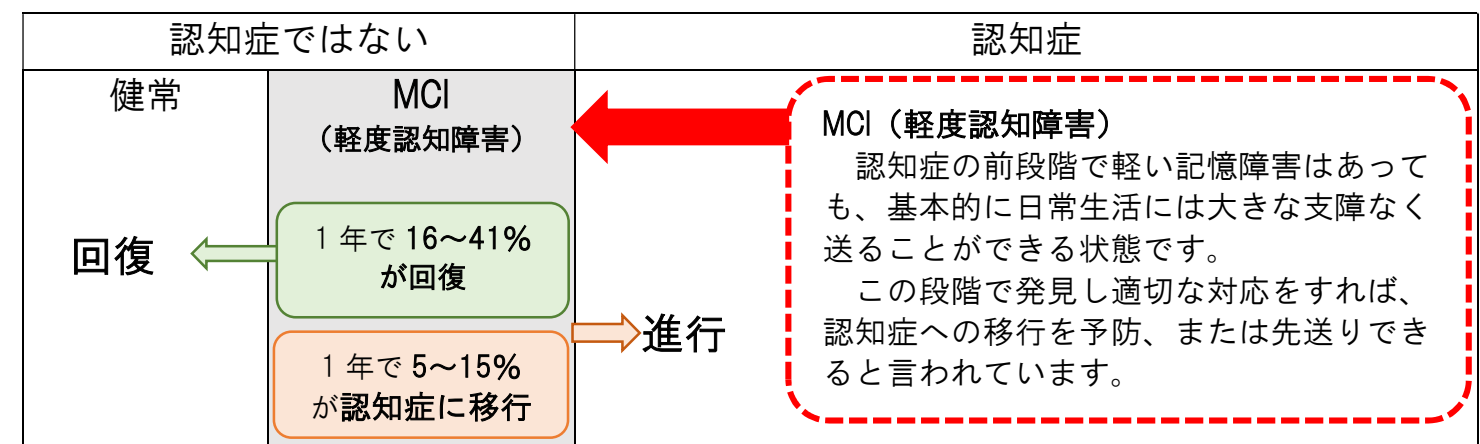
認知症ケアパスとは？

認知症の状態や進行の程度に応じた対応（ケア）の筋道（パス）をわかりやすく示したものです。認知症になっても、いろいろなサービスを利用しながら、住み慣れた地域で生活続けることができるように、周防大島町の状況に沿って、概要を整理しています。



認知症は早期発見・早期対応が大切です！

認知症は原因となる病気により、治療方法やケア方法も異なります。「何かおかしいな？」と思ったら、早めに相談・受診しましょう。



周防大島町地域包括支援センター

高齢者の身近な相談窓口として、様々な相談をお受けしています。認知症は早く気づくことで対応策の幅が広がり、認知症とともに暮らすための備えにつながります。「もの忘れ…まだ大丈夫かな？」が相談どきです。地域包括支援センターは、「自分らしく暮らしたい」を支援します。

場 所：周防大島町役場 日良居庁舎 1 階
 時 間：平日 8：30～17：15
 電 話：（0820）73-5506
 所在地：〒742-2803
 周防大島町大字土居 1325 番地 1

認知症相談日
 毎月第 1 月曜日
 9：00～12：00
 ※相談日以外でも
 相談は可能です